

反核 第五回 福岡県のうたごえ

荒木栄没後 20周年記念

荒木栄さんが昭和三十七年十月二十六日、三十八歳の若さで亡くなられてから、はやく二十年になります。

三池闘争中につくられた「頑張ろう」は、今も闘いのなかでうたわれ、多くの闘争仲間を励ましています。今年、荒木さんが亡くなって二十周年にあたり、全国的にうたごえを中心とした行事が開かれています。

大牟田においても、十月二十三日、うたごえの仲間、友人、知人らによって「荒木栄を偲ぶ会」が開かれます。

翌十月二十四日十二時から、大牟田労働福祉会館で、第五回福岡のうたごえが開かれます。メイコーデオン会館など、多彩な行事が企画されています。



1980年春、四山社宅の広場で「うたごえ」行動隊の指揮をする荒木栄さん。

幾年もの歳月、定年と採用された労働者の移り交り、あつた本所事務所。学習会に手打ちうどんをつくり、行動隊の炊き出しに活気をみながらいた本所事務所。

夜遅くまで酒を酌み交しなが、三池の方針をめぐって激論し、友山、激励のオルグを泊めた仲間、激論の渦に巻き込まれた仲間、涙した本所事務所。

その本所事務所も、長い闘いの歴史を、ズレがかった瓦に、あるいは落ちかかった天井に、柱に、壁に、窓に、そして黒板に残したまま幕を閉じることにした。

幕を引く 本所事務所

閉鎖集会ひらく

世に栄枯盛衰があるとするは長い歴史の過程の中で、通っていかねばならない定めかもしれない。しかしそれは、歴史の流れの中で生まれては消えていく一つの出来事であって、滅びてはまた生き返る不死身の存在もまたあり得ることも教えている。

不死身とは、語り継がれ受けもまた歴史の必然である。

囚人労働遺跡を訪ねる

②

宮原廃坑

小崎 文人

三池集治監といえは、何となくしをのぼせてくれます。集治監の中でも宮原坑のことが思い浮かびます。囚人たちは、くる日もくる日も赤い獄衣(作業衣)で身をこすり、

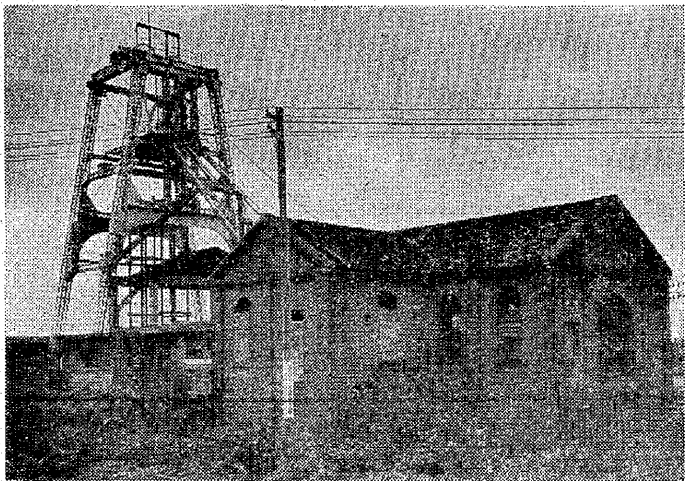
人たちが、昭和六年に三池炭鉱で、顔を深淵までかくし、重い鉄の鎖で数珠つなぎにされ、鉄砲を担いで、その苦役の幕が閉じるまで、なんと三十三年間も出役した坑がそれです。

宮原坑は、三池集治監から南の方へ徒歩で約三十分のところ、市内宮原町四丁目(当時、馬場村)の一隅にあります。今も銀色の堅坑やぐらが高くそびえていて、昔た一人の放免囚は、つらかった日

た。私は毎日炭坑内への出役を、あたたか風にあたる小羊の愛いをもつて、一日と勤めておりました。

彼はさらに、次のような恐るべき事実について語っています。「五人も八人も、一遍に引越した者を扱いましたことは、三年六カ月の間に十三回ありました。あ

る時は三人が下敷きになっています岩をば、ダイナマイトで破壊した、三人の死体は微塵になり、骨と肉を金火箸で拾い集めたこともありました」。



宮原廃坑。一般には「シラコ」(修羅坑)と呼ばれています。赤煉瓦造りの建物は当時のままで、数多くの囚人労働者の命がこの坑の地底でうしなわれました。

米本さんら入賞

労金 写真コンクール

福岡労働創立三十周年を記念して行われた写真コンクールで、米本隆義さん(一分会・四山)は応募作品百点余りの中から、優秀賞(五等)に選ばれました。応募作品は「旅の語り」。

市民芸能祭で

松永一郎さんが詩吟

九月十二日大牟田市民会館開かれた市民芸能祭で、のど自慢の部に「城山」(詩吟・七言絶句)で出場されました。

釣り手余談

連載第十四回

大記録と師匠の巻(二)

十一分会(三川) 石田 鈍竿

『石田さん、この辺ではNOをかりがりと汗びっしょりなうって押させて、毎日通ったそう

と月田店に言われ鼻高々である。家に遊びにくるだれかれの別なく、お披露出に及んだ。一だ

が待てよ、師匠さんにはまだ見せろんじやないかーと思いつつ、諏訪川べりの家に訪ねて行った。

この親戚は、俺が勝手に師匠と奉じている人だが、俺が「師匠」というと、『おい』と返事するから師弟関係であることは間違いないと思っている。

本職は指し物大工で、ちゃんとした店を持ち、腕も確かで注文が多く、仕事は山積みするくらいにあるのだが、本職を放つたらかして店を半分仕切り、釣り具屋を始めたくらいで、キチを通り越して愛人扱いされた人だ。

戦争中、大牟田大空襲の時、屋根にのぼって火の粉を払っていたのはいいが、あやまって地上に転落、両脚を骨折するという大怪我をした。

釣友達が見舞いにきて、釣りの話をすれば、重傷の身で動けない体がいらぬをよび、「カッ」となって灰皿を投げつけたそうだが、いくら楽になる

と魚が眼にちかづき我慢できなくなり、『おい、早よ竿は用意せよ。俺は押し車に乗せる』

よくできた、やさしいカラちゃん、『心得申し上げ候』と

いったかどうかは知らないが、大曲りまで四キロ以上はあるうか、いい潮どきとなればカラちゃんに、鉄輪の重たい押し車

